

史跡旧島松駅逕所整備基本計画

(抜粋)

令和 4 年 3 月

7. 公開・活用及びそのための施設に関する計画

(1) 展示のコンセプト

史跡の重層する歴史的価値について、史跡周辺や史跡全体、及び駅通所の建物などの実物と展示物を組み合わせて、観覧者の理解を深める空間展示とする。

～実物と展示を組み合わせて理解を深める空間展示～

- ① 史跡周辺を見て知り学ぶ
- ② 史跡全体を見て知り学ぶ
- ③ 島松駅通所の建物を見て知り学ぶ
- ④ 展示物を見て知り学ぶ

(2) 展示の構成

史跡周辺 を見て 知り学ぶ	1) 島松地区と島松駅通所が置かれた背景 <ul style="list-style-type: none"> ・ 古くから交通の要衝であった島松地区の歴史 ・ 駅通制度の歴史や島松駅通所が置かれた背景（札幌本道、恵庭側にあった島松駅通所）
史跡全体 を見て 知り学ぶ	2) 駅通所時代とその後の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ・ 島松駅通所の変遷（明治6年～16年、明治17年～30年に設置された要素） ・ 駅通所業務が終わってからの変遷（明治31年以降に設置された要素）
建築を 見て 知り学ぶ	3) 建物の構造などから見る島松駅通所建物の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家建築から一部行在所、駅通所を経て姿を変えていった旧島松駅通所 ・ 建物の構造などからそれらの特徴がしっかりと見て取れるよう、建物を見せる展示とする。
展示物 を見て 知り学ぶ	4) 史跡の要素から見る島松駅通所の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農家建築から一部行在所、駅通所と姿を変えた建物の変遷 ・ 地場建材の「島松軟石」と史跡（建物や碑に使われた軟石） ・ 駅通所となる前に中山家に訪れたW・S・クラークや明治天皇について ・ 地域の方々の心よりどころとなった行在所神社 5) 島松地区と島松駅通所が置かれた背景 <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅通制度の内容、変遷 ・ 島松の歴史、地形的な特徴 ・ 北海道の各駅通所や島松駅通所が置かれた背景（札幌本道、恵庭側にあった駅通所、他駅通所との位置関係） 6) 中山久蔵の生活や交流から見る人物像と農業の事績 <ul style="list-style-type: none"> ・ 久蔵の経歴（出身地や島松へたどり着くまでの生い立ち） ・ 久蔵と人々との交流（松本十郎、片岡利和、松林哲五郎、酒匂常明など） ・ 久蔵の人物像が見られるエピソード ・ 久蔵が取組んだ米作りと現代に続く米作りの精神

(3) 駅通所建物内の展示

1) 説明を添える建築的価値

- ①中廊下型が多い駅通所の間取りにあって、座敷（客室）外周部に廊下を配する駅通所としては、希少な遺構である。
- ②明治14年に上手の10畳二間の増築と中手東側の8畳と6畳間の改築が行われたことから、2本の柱が並ぶ。
- ③屋根裏に明治14年以前の小屋組みが遺り、建物の後設や改築の痕跡が残されている（通常は観覧不可）。
- ④明治の近代化が進む建造物にあって、明治以前（江戸期）の伝統的建具の仕様である「明り障子付板戸」が用いられている。
- ⑤南側と西側（道路側）に配する土間部（ニワ）板戸を冬期以外は取り外し、屋外庭園との一体感を成すため、「土縁」が用いられている。明治期の農家建築である旧中山久蔵宅に土縁が用いられているのは、漁家・商家建築を除き希少な遺構である。

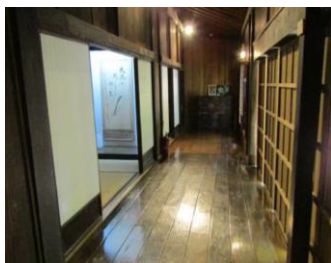


写真 5-7-1
座敷外周部の廊下



写真 5-7-2
改築による2本の柱



写真 5-7-3
明り障子付板戸

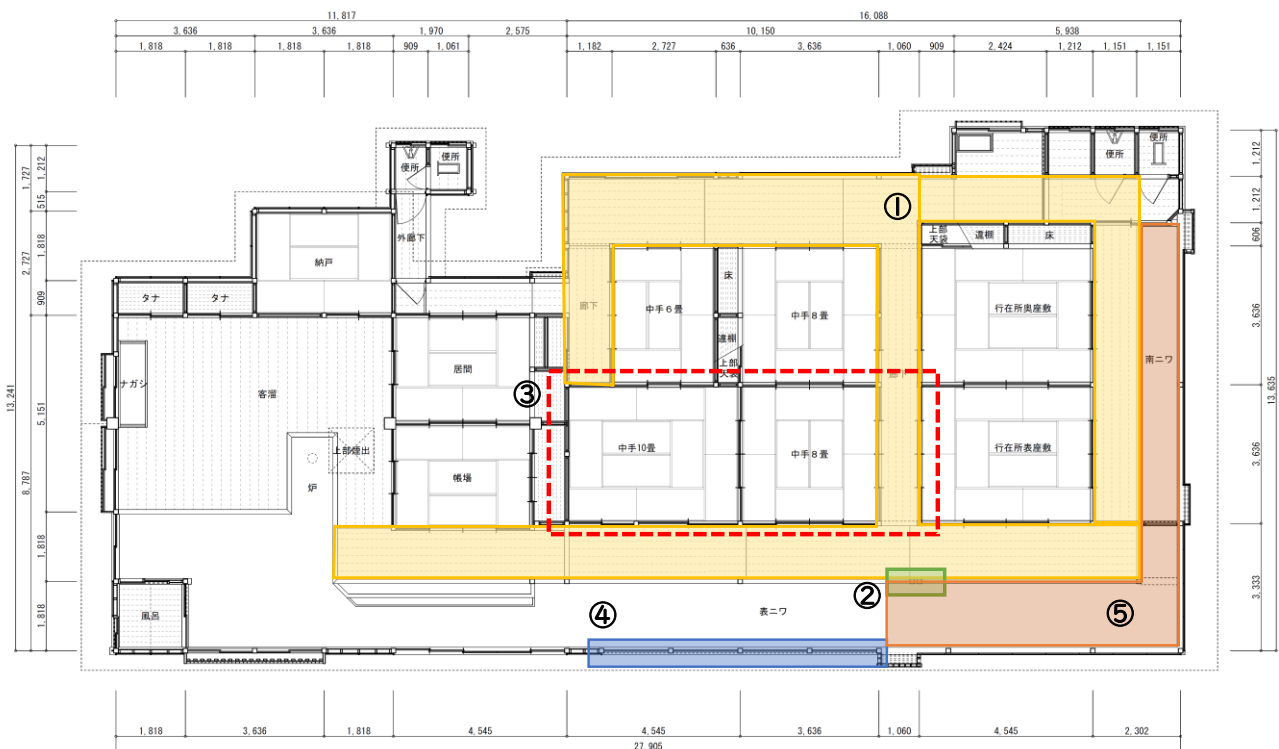






図 5-7-1 説明を添える建築的価値の位置図

2) ゾーニングと展示動線及び展示内容

駅通所建物に訪れた観覧者が、史跡の重層する歴史的価値に対して理解を深められるよう、建物内の展示のゾーニングと動線及び展示内容は以下のものを想定する。また、現在展示している展示物は以下の展示内容を基に展示物や展示点数を精査し、展示ケースや照明の更新、デジタル技術を活用した展示方法を導入するなど、観覧者が見やすく理解しやすい展示とする。

表 5-7-1 ゾーニングと展示動線概要

	名称	主な展示内容
	導入エリア	<ul style="list-style-type: none"> 農家建築から一部行在所、駅通所と姿を変えた建物の変遷の紹介。 駅通所となる前に中山家に訪れた W・S・クラークや明治天皇について。 地場建材（島松軟石）と史跡の紹介（建物と石碑等）。 建物内の展示内容の紹介。
	中山久蔵展示エリア	<ul style="list-style-type: none"> 中山久蔵の経歴（出身地や島松へたどり着くまでの生い立ちなど）や久蔵が取組んだ米作りと現代に続く米作りの精神（賞状など含む）の紹介。 久蔵と人々との交流（黒田清隆、松本十郎など）久蔵の人物像が見られるエピソードの紹介。
	駅通所展示エリア	<ul style="list-style-type: none"> 駅通制度の内容、変遷の紹介。 北海道の各駅通所、その中での旧島松駅通所の役目（恵庭側にあった駅通所など）、札幌本道の紹介。 天井板を外し、実物と説明板による島松駅通所建築当初の小屋裏の紹介。 宿場としての再現について要検討。 建物の材の柱や、継ぎ手などは置き場所要検討。
	行在所展示エリア	<ul style="list-style-type: none"> 明治天皇の行在所となったことの紹介。 期間限定などで行在所神社の社や賽銭箱の設置による行在所神社の歴史の紹介。

※建物内のバリアフリールートについては、地上レベルのエリアを想定し、それ以外の段差等で車いすの動線を確保することが難しいエリアについては、パンフレット等の資料の充実や、ガイドの補助などによるソフト面での対応を検討する。

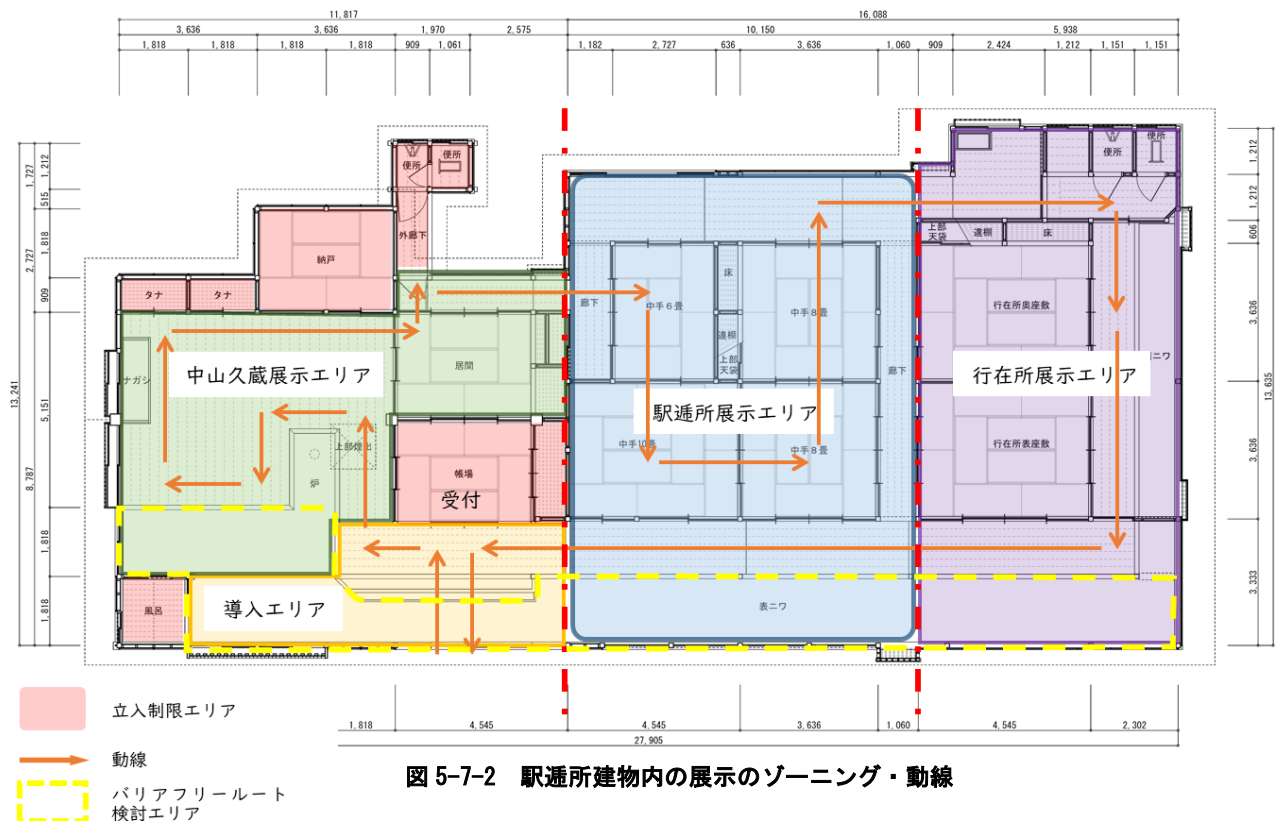


図 5-7-2 駅通所建物内の展示のゾーニング・動線

(4) 外部空間の展示

外部空間には、駅通所の歴史や中山久蔵の事績などを効果的に理解してもらえるよう、史跡の価値を表す要素や説明板に沿って観覧ルートを設置する。観覧ルートの設置と合わせて、ガイドによる丁寧なルート解説で、観覧者の理解をより深めるなどソフト面の取組を行う。

また、バリアフリールートについては、動線計画を参照。

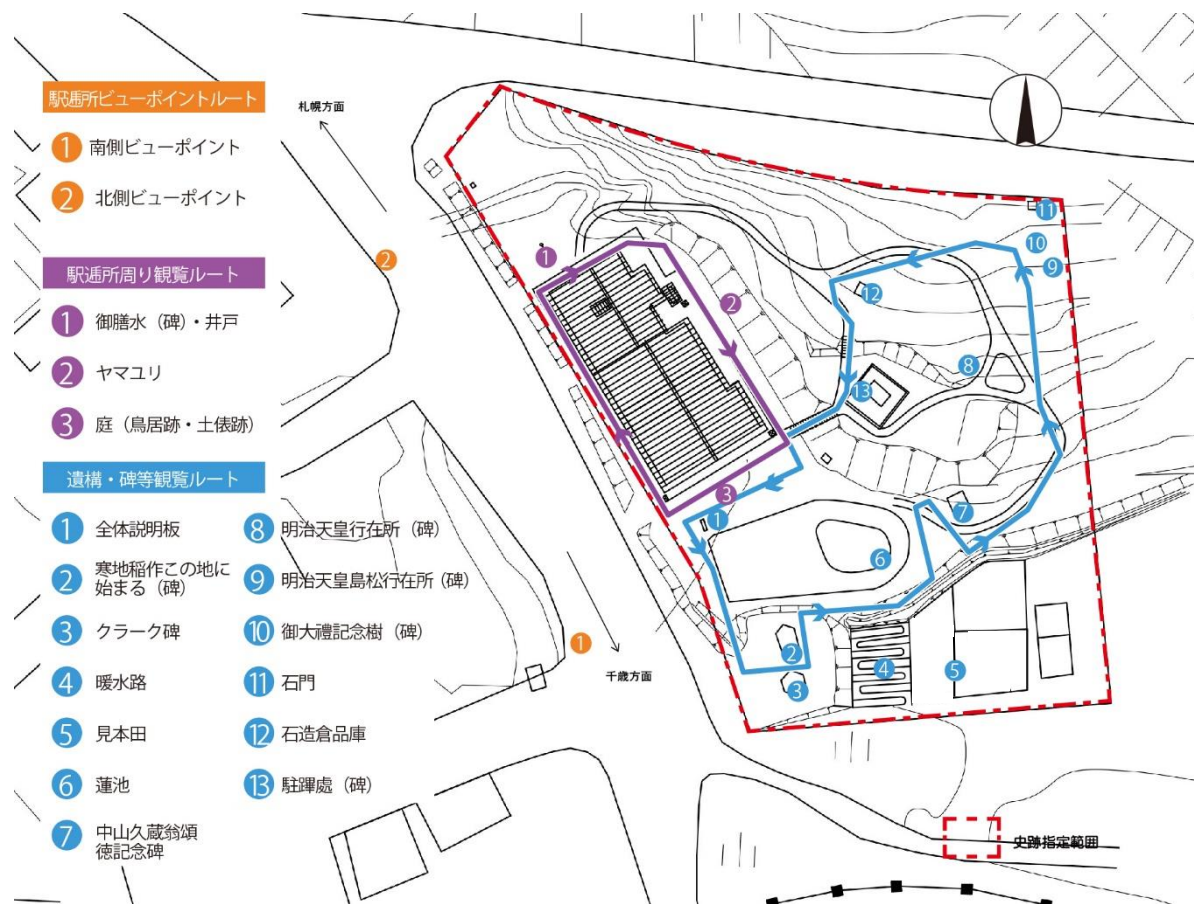


図 5-7-3 外部展示の観覧ルート

(5) ライトアップ施設の整備

現在、ライトアップのイベントの際は、実施の度に適宜コードを敷地内に取り回し、地面等に LED ライトを設置しているが、今後もライトアップ事業は継続していく予定であることから、基本的な常設の設備（配線や照明設置設備など）を敷地内に整備する。

(6) 展示への理解を深める取組

1) パンフレットの作成（多言語化への対応）

旧島松駅通所を紹介するパンフレットの作成と、外国人観覧者にも展示内容等が理解できるよう、パンフレットの多言語の他、将来的にはスマートフォン等を活用した展示内容の解説など、新たな解説の方法について検討する。

史跡内には様々な遺構や資料などの構成要素があり、これらについて深く理解し、歴史を感じてもらえるよう観覧ルートを示した「史跡旧島松駅通所マップ」などを作成する。

2) 体験メニューの提供

史跡内で楽しく体験しながら史跡について学ぶことのできる「体験メニュー」を提供する。

※駅通所で使われている木組みの学習体験、駅通所内での休憩体験など。

3) 観覧者に対するガイドの充実

多人数の観覧等に対応できるよう、ガイドの人員体制の充実を図るほか、史跡の価値や魅力を十分に伝えられるよう、また、観覧者のニーズに応じた説明ができるよう、学芸員や歴史を研究する市民団体と連携して研鑽を深め、ガイドの質的向上を図る。

外部空間においても、史跡の歴史的背景や価値を観覧者に伝えるため、観覧者がガイドの解説を聞きながら外部の展示を巡る仕組みを検討する。

4) 記念品の販売

駅通所に関する絵葉書など、史跡の PR となり、また記念にもなる土産品等を販売し、史跡をより印象付けるとともに、より多くの人に知ってもらおう仕掛けとする。